

本当の平和

一宮市立西成小学校

六年

横山紗季

この世に平和なんてものはあるのか、本当の平和とは何か、私は疑問に思う。平和とは争いのない世界。では、戦争さえなければ平和なのか。そもそも、人には欲望がある。欲望があり、それを正義だと思っているから争いが起こる。どちらも自分が正しいと思っているから争いが起こる。自分は正しくないと思っていていたら、争いは起こらない。結局、そ

の争いで、ひどい目にあうのは無関係な人々だ。人の身勝手な欲望で争いが起き、尊い命が失われる。亡くなった人の数だけ、失われた命がある。失われた命の数以上、悲しむ人がいる。そういった惨事がかつて起こったのに、まだ争いをやめようとしらない。その惨事を忘れたから、知らないから、忘れていなければ、知ろうとしていたら、二度と起こらないはず。でも、忘れていなくても、知っていたら、欲望に動かされて、争いを起こす人が

いる。欲望がある限り、人は争いを続けるかもしれない。では、平和はもう訪れることはないのか。それは違う。平和にしたいという思いも人の願望であり、欲望でもある。だが願うだけでは、何も起きない。願いを行動に移さなければならぬ。それで平和が訪れたとしても、かつて起こったことを、忘れてはいけない。忘れたら、また起こる。そして、何人もの命が失われることになる。

物理学者であるアインシュタインは言った。

「第三次世界大戦は核兵器を使うが、第四次世界大戦では、石槍や斧を使うだろう。」つまり、第三次世界大戦で人類は滅亡し、再び人数が生まれ、戦争をする。しかし、文明が発達していかないため、簡易な武器を使うことになるという意味。

戦争は、時には世界の滅亡を招きかねないときがある。それはもう、他人事として聞き流すことはできない。

戦争は、災害ではない。だから、未然に防



ぐことができます。しかし、一人の小さな声と訴え、思っただけではどうにもならないときもある。だが、一人一人の声は小さくても、それが集まれば、大きな声となる。

私は訴える。戦争は、すべてを奪う。家や建物、多くの命や希望、時には、自分の命も。戦争がないのが平和という訳ではないが、この世に戦争というものがなければ、救われた命が計り知れない程あったはず。平和になった所で、失われた命が返ってくることはない。

でも、平和になれば、救われる命も計り知れない程あるということ。

だから、平和を訴える。少しでも、尊い命が救われるように。